

犬塚氏が会長に就任

日本ダクタイル異形管工業会総会

日本ダクタイル異形管工業会は6月7日、第63回定時総会(写真)で任期満了に伴う役員改選を行い、村瀬充氏(村瀬鉄工所社長)の後任として犬塚宣明氏(ハズ社長)が会長に就任した。そのほかの議案は昨年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算で、会員会社向けの配管接合講習会の再開などを決めた。



村瀬会長



犬塚新会長

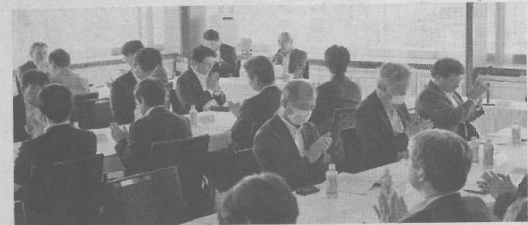
役員改選では、常任理事・監事・専務理事全員

の留任を決めた後、常任理事から犬塚氏を会長に、遠山善彦氏(遠山鐵工所社長)を副会長にそれぞれ選出した。役員任期は2年で、会長に限り2期4年までの重任を原則としている。

昨年度は前身の「水道用鑄鉄異形管工業会」設立60周年に当たり、6月の総会にあわせて記念講

演会を開催した。11月には研修会を開き、会員会社である岡本の本社製造工場(岐阜市)と、グループ会社のナベヤの本巢精密工場(岐阜県本巣市)を員学。会員各社の品質管理向上に向けた工場の現況確認も再開した。

工業会独自の標準書の作成作業も進めた。今年4月にはJDFQO12-3「測定機器の測定手順標準—電磁膜厚計—」と同O14「変位点管理標準」(いずれも仮称)の作成にも昨年度から手を付けた。今年度は同O12シリーズの▽ピンホ



ールディテクター▽圧力計(水圧)▽引張試験機—の作成に着手する。今年8月には6年ぶりの配管接合講習会を開く。その間に入社した会員会社の社員を対象に、

クボタと栗本鐵工所の工場で研修を行う予定。冒頭であいさつした村瀬会長は、自然災害が頻発する中でも「耐震型ダクタイル管路が被害を受けて水道がストップしたという話は聞かない」とし、その一部を構成するダクタイル異形管の重要性に言及。「今後も安定供給を続けることがわれわれの使命であり、それが水道の基盤強化への貢献になる」と話した。

終了後の懇親会では犬塚新会長があいさつに立ち、昨年初に明るみに出た塗料問題について「こんなに苦しいことが起きるとは思いもしなかったが、技術委員会の皆さんや技監に助けていただけて乗り切ることができた。工業会に入っていて本当に良かった」と振り返った。今後については「活動を明るく楽しいものにしていきたい。皆がライバルではあるが、その中で共有できるものを作れるといい。会員のために何ができるかを考えることが大切」などと抱負を述べた。また、犬塚新会長の甥で洗足学園音楽大学講師の大河内淳矢氏と、息子でハズに勤める犬塚進氏による尺八・フルートの演奏が行われ、歓談に華を添えた。